

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価

園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターきぶね

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和7年2月5日（水） 9：30 ～ 11：00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

みんなの中で一人ひとりが生き生きと

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

遊びの中で 育ち合う ～ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿より ～

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・年度当初にて、教育・保育目標や重点目標等について、3年間の課題や取り組みを全職員で共通理解している。 ・グランドデザインを経営書や保育ダイアリーに掲載してあり携帯する事でより身近になり常に意識する事ができている。また、定期的に振り返りを行い、教育・保育の充実を図った。 ・重点目標については、3年間の取り組みとなり『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を各々の発達に落とし込み、教育・保育につなげていった。0～5歳児までの育ちの過程や子どもの姿・つぶやき等と『10の姿』に意識づけしたことで、子どもの活動とのつながりを明確に捉えることができた。常に、子どもの姿からの保育を見直し課題に取り組む中で、重点目標を意識して学びを深めていった。	4	・10の姿を意識して取り組んでいることが園だよりや懇談会等を通して伝わってきた。 ・全職員で共有し、園全体で取り組んでいることが分かった。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	・園児の姿から『幼児期に育ってほしい10の姿』を踏まえた指導計画を作成し、教育・保育を展開できるようにしていった。子どもの気持ちに寄り添い、子どもの発達や成長に合わせて環境を見直し、実践することで職員間で共通理解のもと、教育・保育を進めていくことができた。また、子どもにとって安心して過ごすことができるよう清潔や整理整頓を心がけた。 ・子どもたちが遊びを通して、人と関わる力や思考力等が育まれるように環境を整え、ねらいを持って実践していった。 ・季節や子どもの興味に合わせた環境設定、畑やクッキング等、時期を逃さず計画的に実践する事が今後の課題である。 ・秋季研修では、保育の場面の1枚の写真を通して、10の姿の視点でどのような育ちがあるかクラスで振り返り、ドキュメンテーションを作成し、それを園全体で共有することで、子どもたちの育ちの新たな気づきや視野が広がって学びを深めていくことができた。 ・防災訓練を毎月実施し、災害児の対応について確認や見直しを行い、職員全体で共通理解のもと、どの状況においても対応できるようにしていった。また、園児に対しても災害時の身の守り方や訓練の大切さを伝えていった。	4	・全職員で共有し、園全体で取り組んでいることが分かった。 ・大きい目標があることは良いことだが、重点的にねらいを定めて取り組むと更に良い。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添い、園児一人ひとりの姿や発達を理解し、職員間で連携を図りながら安心して過ごせるよう声掛けや見守りをしていった。 ・園外保育や散歩に出かける機会を設け、起伏のある場所を歩いたり、距離を徐々に伸ばしていきながら、歩く経験を通して足腰を中心に強くできるようにしていった。また、園外に出ることで自然に触れ四季の移り変わりに気づくことができた。 ・防災訓練や起震車体験を通し自分で身を守る方法を学んだり身に付けていけるようにしていった。 ・畑で野菜の栽培を通して旬の野菜の生長、収穫を共に喜び合うことができた。また、収穫したものをを使ったクッキングをする事を通して食への興味関心へつなげていった。 ・異年齢の関わりを大切に散歩や集団遊び等の活動を取り入れ、関わりの中での成長を促した。 ・3～5歳児は運動会や発表会等の行事を通して、一人ひとりが自分の目標に向かって取り組み、安心して自分の思いを表現したり、自己発揮をすることで子どもたちの自信につなげていくことができた。また、0～2歳児は、その姿を見て、同じように模倣したり、遊びに取り入れられたりする姿が見られ、お互いに刺激を受け合い成長していくことができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、自分で決めた目標を達成するということが発揮され、その子らしさが認められ、子どもにとって自信につながる活動であった。 ・年齢に応じた保育が展開されている。 ・散歩を通して、身体の発達を促したり、感性を磨いたり、学びにつながっている。 ・畑で野菜の水やりや収穫、クッキングを通して、自然や食育への興味、関心が深まっていた。 ・中高生との関わりが多々設けられ、世代を超えた交流が子どもたちにとって貴重な経験となっていた。 ・サッカーの練習や大会を通して、きぶねのユニフォームを着て参加することで、きぶねの園の代表として意欲的に参加できた。また、同年齢の他園の子と関わる機会も貴重な経験となった。 ・職員の姿勢が子どもに伝わり、職員の努力が子どもの成長につながる。優しさの中でどう子どもたちを育てていくか、どう伝えていくかが大切である。子ども同士がお互いが認め合い成長できるようにして行ってほしい。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時保護者とのコミュニケーションを図り、共に成長を喜んだり、気になる事を相談できるように努めた。 ・保育参加や懇談会等を通して園での様子を伝えたり、情報を共有したりした。懇談会の中では、保護者同士で懇談し、子育てについて楽しみや悩みについて共有することができた。 ・懇談会では、小学校の教務主任による『教育講演会』を行い就学に向けて意識する機会になった。また、保健師によるコンセプションケアについての講話を行い、専門職からの情報を得ることができた。 ・ブログの更新を増やし、園の様子を伝えることを意識した。遊びや子育てについての発信内容のバランスについて計画的に、保護者や地域の方に伝えるよう必要な情報を発信していきたい。 ・悪天候時や感染症等の情報をメールやおまかせシステムを活用し、状況に応じて迅速な発信を行った。 ・親子で遊ぶう会では、3～5歳児の親子での園外保育の活動になり、園の日常生活の中で使用している地域資源や場所を保護者に知ってもらう機会にもなり、保護者同士の交流を深める事ができた。 ・運動会では親子競技を行い、親子で一緒に体を動かす楽しさを味わうことができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時には気持ちの良い挨拶をしてきてくれた。迎えの時には、担任以外から子ども様子を教えてくれることで、園全体で子どもたちに関わってくれ、職員間の連携がとれていることが分かる。 ・5歳児の懇談会では、伎倍小学校の教務主任の先生による教育講演会があり、就学について知ることができた。また、懇談会の中で、グループで子育てについて話をすることで、保護者同士の交流の機会になった。 ・ブログの更新が増え、園の様子がよく分かるようになった。 ・感染症状況について、メールで配信してくることで、園の状況が分かりやすい。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生のボランティアの参加の機会が多く、子どもたちは色々な世代の地域の方と触れ合うことができた。また、中高生に対し保育教諭と懇談する機会を設け、福祉について知ってもらい、保育の仕事や子育てに夢が持てるようにしていった。 ・子育て支援ひろばのおたよりを配布・掲示し、毎日開放して地域親子や園児との交流をもつ事ができた。プレ葉ウォーク浜北で、一般地域の親子向け広場を開催し、ふれあい遊びや手作り玩具等の子育てに関する情報提供をし、地域の方の子育て支援につなげていった。 ・ブログ更新の頻度を増やしたり、地域におたよりを回覧したりと園の情報を公開していった。 ・民生委員等との懇談会の機会を設け、情報交換を行う中で地域人材資源として『魚の解体』を実施し、命を頂く感謝の気持ちを学び食育活動につなげることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のボランティアが大勢参加してくれたことで、スムーズに進行していた。職員だけでなく、ボランティアの方も、たくさん応援してくれたことで子どもたちも励みになっていた。 ・お泊り保育では、プレ葉ウォークに買い物に出かける経験が貴重な経験となっていた。傘をさして歩き、交通ルールの理解にもつながった。 ・プレ葉ウォークの親子広場は、一般の方にとって良い機会となっていた。 ・魚の解体や地産地消では、命の恵みに感謝することを学ぶことができた。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの得意な分野を保育に生かし、日々の保育や伝統行事を協力して行っていった。また、職員間の報連相を心掛け連携を図った。 ・子どもの思いを活動に発展させることができた。クラス以外でのつながりのある活動を計画的に実践できるように保育を更に充実させていきたい。 ・挨拶を丁寧に行い、子どもの見本となれるような姿勢を心掛けた。 ・研修等には積極的に参加し、知識を深めていった。また、毎月の職員会議の中で研修内容を水平展開し、保育の質の向上につなげていった。 ・園内研修を通して、全職員で一緒に学ぶ事で保育の振り返りを行った。その中でグループワークで意見交換をする事で、視野を広げて学びを深める事ができ、園全体で同じ思いをもって教育・保育ができるようにしていった。 ・職員が連携して、時間内に業務が進めるようノンコンタクトタイムを導入し、全体の業務を効率よく進めていくよう工夫した。引き続き職員一人ひとりが主体的になって、業務を協力して進めていくことができるようにしていく。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちと子どもたちの成長を共有できることが保護者にとっても嬉しいことである。先生たちの充実、実践の成果が認められることを更に期待していきたい。 ・研修を重ね、向上していくこととする姿勢が良い。また、ノンコンタクトタイムを充実させていき、保育の充実につなげていってほしい。 ・子どもたちの笑顔が、先生たちの笑顔につながる。笑顔で一日働けることが専門職として大切なことである。